

電気通信大学 平成20年度シラバス

| | | | |
|---------|--|----------|--------|
| 授業科目名 | 社会思想史A | | |
| 英文授業科目名 | History of Social Thought A | | |
| 開講年度 | 2008年度 | 開講年次 | 1(2)年次 |
| 開講学期 | 前学期 | 開講コース・課程 | 昼間コース |
| 授業の方法 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 科目区分 | 総合文化科目-人文・社会科学科目- | | |
| 開講学科・専攻 | 情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科 | | |
| 担当教官名 | 庄司 俊之 | | |
| 居室 | 非常勤講師 | | |

| | |
|--------------------|------------|
| 公開E-Mail | 授業関連Webページ |
| JZM04216@nifty.com | |

| |
|---|
| 【主題および達成目標】 |
| <p>思想は社会のなかから生み出され、また何らかの影響を社会のほうへ投げ返す。そうした相互作用や葛藤の歴史として社会思想史を眺めた場合、主題はおのずと決まってくる。思想をつうじて社会や歴史を学ぶこと。また、特定の社会的・歴史的状況のなかで、いかなる思想が要請されたのかを思考することである。</p> <p>本年度の「社会思想史A」は、昭和前期の超国家主義とそれをめぐる論評を取り扱う。戦後日本は戦前の反省のうえに立ってスタートしたが、その際、昭和前期の超国家主義はまるごと否定された。だが、それは超国家主義を十分に検討しないまま、不問にふすことを意味していた。したがって、今日あらためて超国家主義を検討するということは、戦前と戦後、そして現在にいたる思想と社会のありようを問い返す作業となるだろう。</p> |

| |
|-------------------------|
| 【前もって履修しておくべき科目】 |
| とくになし |

| |
|------------------------------|
| 【前もって履修しておくことが望ましい科目】 |
| とくになし |

【教科書等】

丸山眞男『現代政治の思想と行動』（未来社、¥3990）所収の論文「超国家主義の論理と心理」、および橋川文三（筒井清忠編）『昭和ナショナリズムの諸相』（名古屋大学出版会、¥5250）所収の論文「昭和超国家主義の諸相」をテキストとする。

それぞれ高価なため、必要な箇所はコピーして配布する。購入するしないは受講者各自が判断すること。

【授業内容とその進め方】

社会思想史Aは昭和前期の超国家主義を主題とする。

講義では最初の5回、戦後を代表する政治思想家・丸山眞男による超国家主義論を精読する。とても短い分量ながら、その論文こそが戦後日本の思想的な方向性を決定づけ、また、戦前の軍国主義を一刀両断に否定する論法を準備したのだった。だが、そのシンプルさとわかりやすい議論ゆえに、丸山は超国家主義を単純化しすぎるといった問題を残してしまう。

後半の10回は、丸山の弟子の一人・橋川文三による超国家主義研究を概観する。最初の5回では文章の一行一行を吟味するのに対して、後半では、列伝ふう超国家主義者たちの諸相を追うことになるだろう。講師は決して超国家主義を称揚しようとは思わない。ただ、従来とは異なる超国家主義と戦前・戦後への理解が得られれば成功である。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2/3以上出席した学生を評価対象とする。評価は、最後に提出してもらったレポートによる。

レポートの課題は未定だが、講義内容の要約、あるいは講義と関連した自由研究など、いくつかのオプションを用意する予定である。

評価は、提出されたレポートが、テキスト等に照らして過不足なく適切な理解を示していればすべて「優」とする。また、自分の言葉で語りなおし、理解が血肉化していると認められ、とくに独創性のあるものが「秀」である。他方、テキスト等に照らしてレポートに不十分な部分があれば、その不十分さに応じて「良」や「可」となる。

【オフィスアワー：授業相談】

とくに設けない。質問等は講義後、もしくは電子メールで受けつける。

【学生へのメッセージ】

【その他】